

支縁のまちネットワーク 第3回研究交流集会

日時 2014年
3月1日(土)午後2時~5時

会場 浄土真宗本願寺派
栄照寺 大阪市城東区今福南1-5-21 電話 06-6931-7817(代)
*アクセスマップは下記をご覧ください。
駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

第1部:講演の部

演題:自坊を離れて社会活動をすることの意義

—宗教者の社会活動をめぐる「ホームとアウェイ」の問題を考える—

おおこうち だいはく

講師:大河内 大博 氏

(浄土宗願生寺副住職・いのち臨床仏教者の会副代表)

コメンテーター:白波瀬達也

(関西学院大学講師・宗教社会学)



▲ 大河内 大博氏

第2部:活動団体の報告と意見交換

総合司会:宮本要太郎

(関西大学教授・支縁のまちネットワーク共同代表)

参加費無料
お誘い合わせて
ご参加ください

— アクセスマップ —



地下鉄蒲生四丁目駅
徒歩15分

— 開催趣旨 —

宗教者にとっての「ホーム」とは、寺院や教会など、自らの属する宗教施設やそこでの宗教活動です。

一方、「アウェイ」とは、そうした場から離れた領域や現場で、さまざまな社会活動をすることです。

近年、宗教者が「ホーム」に留まるのではなく、「アウェイ」へと積極的に踏み出していくべきだと言われるようになりました。

その場合、宗教者の置かれた状況、またその個性や資質も種々多様なものがあり、どんなところを「アウェイ」として活動するか、またももとの守備範囲である「ホーム」とどう向き合うかが問われています。

そこで今回、第1部として、いのち臨床仏教者の会で多方面にご活躍の若手僧侶・大河内大博氏をお招きして、このテーマをめぐっておおいに語っていただくことにいたします。

第2部は、この講演をふまえ、宗教者の関わる活動団体の報告と意見交換をしていきたいと思っております。